

運転と認知機能

- ☑ 認知機能が低下すると、急ハンドルや急ブレーキなどの急イベントが減っていく

(J Appl Gerontol 2019 Feb;38(2):277-289.)

- ☑ 認知機能が低下すると、運転の回数が減る

(J Alzheimers Dis. 2019;68(4):1625-1633. J Appl Gerontol. 2019 Feb;38(2):277-289.)

- ☑ 認知機能が低下すると、交通違反が増えていく（一時停止無視など）

(Alzheimer Dis Assoc Disord. 2017 Jan-Mar;31(1):69-72. Front Psychol. 2020; 11: 596257.)

認知機能が低下すると**車両挙動・操作**が変化するのであれば、

車両挙動・操作の変化から**認知機能**の低下が分かるのではないかと？

認知機能低下による**車両挙動・操作**の変化をサポートすることができるのではないかと？



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

共同研究の体制

大分大学



全体の統括・研究実務担当

臼杵市医師会



一般社団法人
臼杵市医師会

被験者のリクルート・研究実務担当

スズキ株式会社



次世代モビリティサービス事業部



全体のフォローと自動車関係の実務担当

横浜研究所



車両データの分析

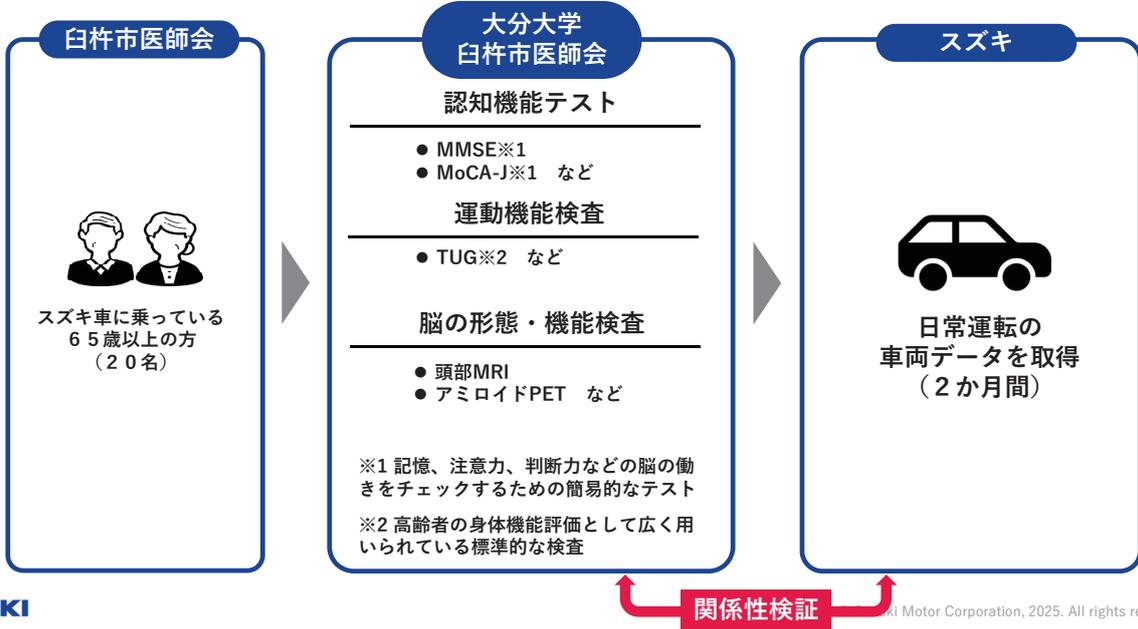


© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

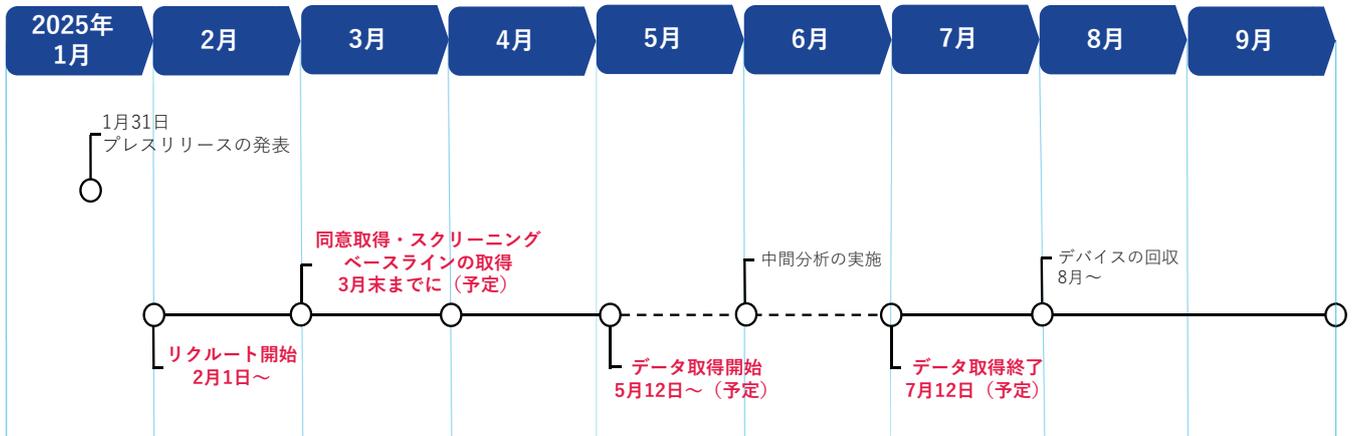
目的と方法の概要

目的

臼杵市在住の高齢ドライバーの日常運転データを取得し、認知機能と運転の関係を明らかにする。



スケジュール



認知機能と運転特性の関連について、大分県臼杵市で共同研究を開始 ～認知機能低下の早期発見・予防で、安全に長く運転を続けられる社会の実現を目指して～

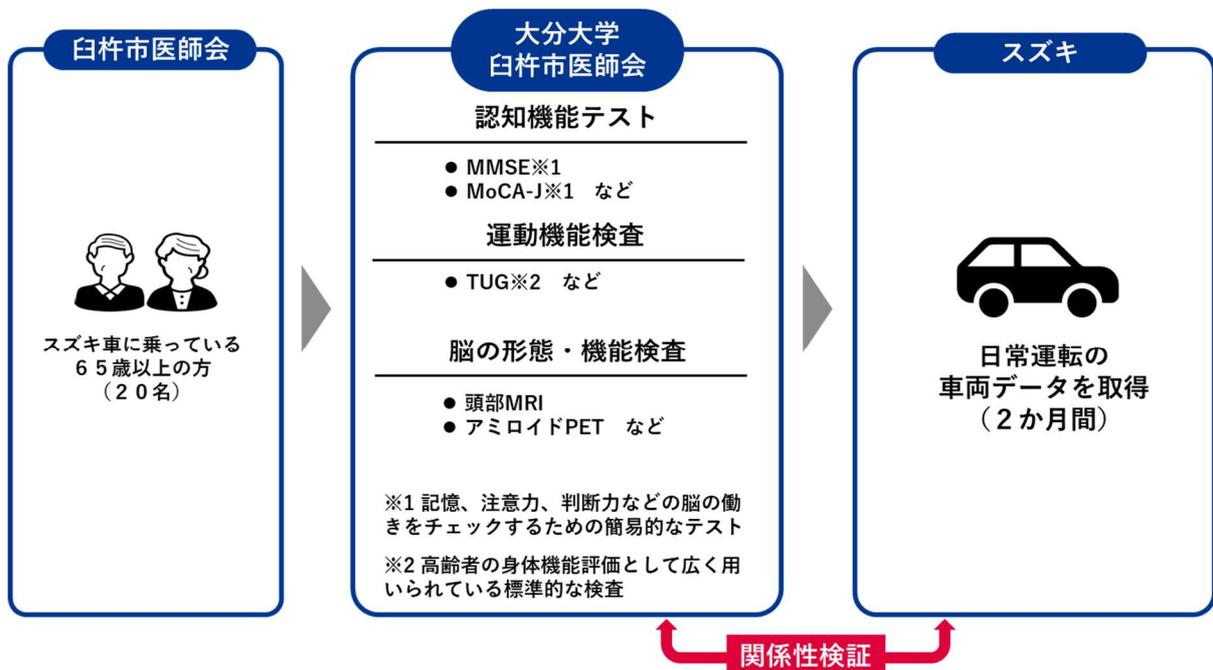
スズキ株式会社（以下、スズキ）、国立大学法人大分大学（以下、大分大学）、一般社団法人臼杵市医師会（以下、臼杵市医師会）は、認知機能と運転特性の関連を明らかにするため、認知機能が低下した場合に現れる車両の操作や挙動の特徴を明らかにすることを目的とした共同研究を開始します。

急速な高齢化が進み、年齢や身体的な機能の衰えから運転に不安を感じる方々がいる一方で、自動車は生活の足として地方にお住いの皆様の移動の需要を支えています。本共同研究は、高齢者の日常運転の分析により、認知機能低下の早期発見、さらに認知機能低下の予防にもつながるもので、高齢者のドライバーが安全に運転できる期間の延伸も期待されます。

本共同研究によって、より多くの方々が、より安全に自由に移動できる豊かなモビリティ社会の実現を目指します。

【本共同研究の取り組み内容】

本共同研究では、臼杵市医師会に所属するかかりつけ医の協力のもと、臼杵市在住の65歳以上の高齢ドライバーを募集します。その後、臼杵市医師会立コスモス病院、臼杵市医師会立市民健康管理センター及び大分大学医学部神経内科学講座の協力のもと、認知機能テストや運動機能検査、脳の形態・機能検査等の様々なデータを収集します。2か月間の日常運転データ取得後、スズキ 横浜研究所にて分析を行い、認知機能と運転がどのような関係を有しているか検証します。



今後、本研究で得られた成果を基に、日常運転から認知機能の低下を検出する技術の開発に加え、日常運転データを活用して個人に合わせた安全運転のしくみを提供するなど、一人ひとりが安心・安全に移動できる新たな価値の創出に取り組んでいきます。

【共同研究概要】

実施期間：2025年1月～2027年3月

対象者：大分県臼杵市に在住のスズキ車を日常的に使用している65歳以上の高齢者(20名)

実施主体：スズキ、大分大学、臼杵市医師会

<本件に関する報道関係お問い合わせ先>

スズキ株式会社

広報部 国内広報課

Tel:053-440-2030

国立大学法人 大分大学

総務部 総務課広報係

Tel:097-554-7573

一般社団法人 臼杵市医師会

臼杵市医師会事務局

Tel:0972-63-0099